

宇治市乳幼児教育・保育推進協議会

保幼小連携専門部会通信（第1号）

令和5年6月28日（水）に、第1回宇治市乳幼児教育・保育推進協議会保幼小連携専門部会を開催いたしました。
部会の様子をお知らせします。

第1回の主な内容

1. 専門部会について
2. 部会員自己紹介
3. 検討（現状の把握・課題の抽出）



専門部会とは

「保幼小連携」「発達・子育ての支援」の推進にあたり、現状の把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするために設置したものの。

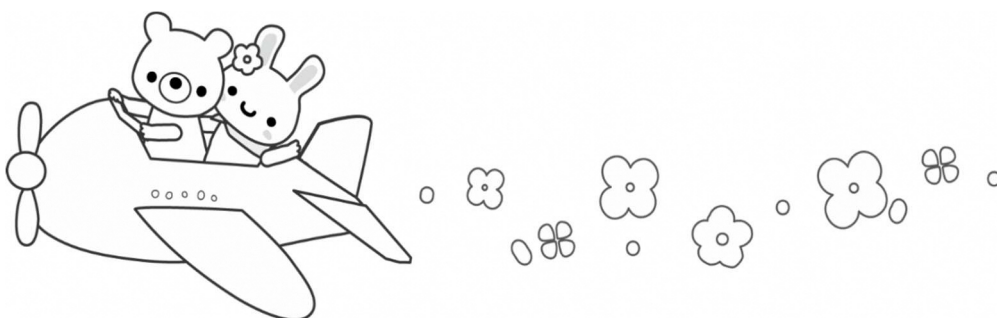


○自己紹介

部会員に任命された施設類型を越えた各園（所）の職員の皆様にお集りいただき、第1回目ということで、『顔の見える関係づくり』の第一歩として自己紹介と、幼少期の心に残っているエピソードを話していただきました。

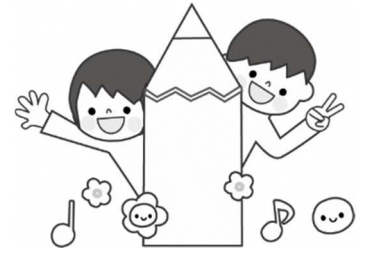


1回目ということで、
皆さんとお知り合いになって
話ができる環境になるということが
本日の目的です。



○現状の把握と課題の抽出

部会長の進行のもと、日々感じていることや課題等について話し合いました。



主な意見

- 1 保護者支援（その子どもに対する支援を含む）に関する課題など
コミュニケーションの取りづらさ
（教育相談、療育施設、支援学級等について理解を得ることが困難）
信頼関係を築いていくことの必要性
療育や子どもの難しさを理解している保護者も子どもの育ちについて揺れ動く感情を持っているため、親子で支援していくことが必要
- 2 小学校、就学前施設同士の連携に関する課題など
就学前の子どもが就学への不安感を軽減できる機会や仕組みの構築
（小学校の図書室を利用する機会を作るなど）
教育相談を申し込まなかった場合の情報共有や連携の方法
小学校の先生に就学前の子どもの姿を見てもらう機会の必要性
就学前から子どもたちは「友達に対して親切にする」、「助け合う」など非認知能力を持ち、育てていることを再認識してもらうことの重要性
就学前の先生が小学校の授業を知り、教育・保育に活かすことの必要性
就学前の先生同士が施設類型を越えた横連携の必要性（公開保育など）
- 3 その他の課題など
先生の人手不足（就学前施設及び小学校）
よりよい教育・保育のために先生の資質を高めることの重要性
- 4 課題の捉え方について
配慮や支援が必要な子どもだけでなく、その周りの子どもを含むすべての子どもたちの育ちについて検討する必要がある
配慮や支援が必要な子どもに対する適切な支援手法の確立は、全ての子どもにとっての適切な支援につながる
課題を俯瞰的かつ自分事として捉え、それぞれの施設で何ができるかを考え、吟味、実践していくことが必要



（仮称）乳幼児教育・保育支援センターとは

施設類型を越えて全市的に連携・協働し、各施設での取組を共有することにより、これまで以上に、保幼小連携の取組推進や人材育成など、教育・保育の質の向上を図ることが可能となると考え、その仕組みづくりとして（仮称）乳幼児教育・保育支援センターを設置する。

宇治市乳幼児教育・保育推進協議会とは

すべての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築すべく、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有し、連携、協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を支援するため、宇治市乳幼児教育・保育推進協議会を設置する。

